

管理所レビュー VOL.03

(H29.5.17 水源林管理所)

5月10日(水)に実施されました第3回のボランティア活動日は、朝方までの雨も止み、曇り空の涼しい1日となり、予定どおりに間伐作業を実施することが出来ました。

皆様、大変お疲れ様でした。

今年度の活動地は、伸びのあるスギが多く、伐倒の際には十分な注意が必要です。安全第一を心掛け、基本に忠実な作業をお願いします。

それでは、安全活動のための水源林管理所の振返りなどをお知らせします。

1 50名のご参加、ありがとうございます！



段々と雲が上がっていきます。



しっかり体を伸ばしましょう。



本日もよろしくをお願いします。

2 作業の様子とワンポイントアドバイス。



かかり木発生！



落ち着いて処理できました。



木回しを有効に使用しました。



補助ロープを使って安全に。



伸びのあるスギの伐倒に注意。



周囲のアドバイスが大切です。



足元に注意しましょう。



足場のいい所で作業しましょう。



浮いた材の玉切りは要注意です！

3 スギの伐倒について。

今回の間伐作業中、スギを伐倒しようとロープを引いたところ、木が裂け上がり、途中から折れる事例が発生しました。

発生の原因は、縦に裂けやすいスギの特性に加え、ツルが大きすぎて（厚すぎて）機能しない状態のまま、ロープを引いたためだと考えられます。

本来ならば、適正な大きさのツルが残った状態でロープを引くと、ツルを基準に立木の自重で目標とする方向へ倒れ始めますが、今回のようなケースでは、途中で折れた木が予想外の方向へ落ちる場合があるので、大変危険です。

今回は幸いにも事故には至りませんでした。今後はスギの特性を考慮し、適正な大きさの受け口作りと、適正な大きさのツルを残すなどの基本に忠実な作業を実施しましょう。



途中から折れたスギ。



受け口の大きさ（深さ）にも注意。



裂け残った部分は処理しました。

4 ツルの役割について。

受け口を切り、追い口を切り進め、木が倒れると受け口と追い口の間に残される部分を「ツル」といいます。

ツルは、木が倒れる時に曲がりながらちぎれ、その時の抵抗で倒れる速度を調整し、蝶つがいの働きが伐倒方向を確実にします。

伐倒方向を確実にするためには、ツルを切り過ぎないことが重要です。切り足りない時は修正の切り足しが可能ですが、切り過ぎは修正がききません。

「ツル」の働きは次のように要約されます。

- ① 伐倒方向を確実にすること。
- ② 伐倒する立木の安定を保つこと。
- ③ 伐倒木の倒れる速度を遅くすること。

立木を目標とする方向に安全に確実に倒すためには、ツルの働きを理解し、ツルを正しく残すことが大切です。ツルは切りすぎても残しすぎても危険です。ツルを正しく作り、十分に機能させるようにしましょう。



「ツル」は蝶つがい。

「伐木造材作業者必携より一部抜粋」

※ この季節は、暑い日と涼しい日の寒暖の差が激しいので、活動には、羽織るものを1枚用意してご参加いただくと良いと思います。

※ 5月20日（土）は、晴れのち曇り、最高気温25度、降水確率20%となっています。

★それでは5月20日、気をつけてお越しく下さい。